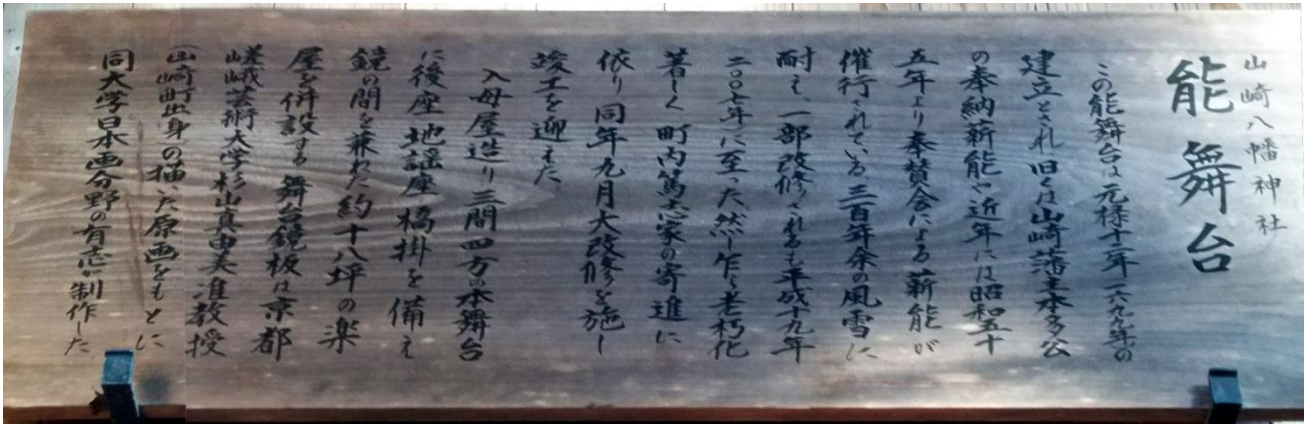


山崎八幡神社 能舞台



山崎八幡神社

能舞台

この能舞台は元禄十二年（一六九九年）の建立とされ、旧くは山崎藩主本多公の奉納新能や近年には昭和五十五年より奉賛会による新能が催行されている。三百年余りの風雪に耐え、一部改修されるも平成十九年（二〇〇七年）に至った。然し乍ら老朽化著しく、町内篤志家の寄進に依り同年九月大改修を施し竣工を迎えた。

入母屋造り三間四方の本舞台に後座・地謡座・橋掛を備え鏡の間に兼ねた約十八坪の楽坪の楽屋を併設する。舞台鏡板は京都嵯峨芸術大学杉山真由美准教授（山崎町出身）の描いた原画をもとに同大学日本画分野の有志が制作した。



鏡板



改修された能舞台

←橋掛



地謡座→



鏡の間と（旧）鏡板